

第5章 朴島（朴島北貝塚）の確認調査

調査要項

遺跡名：朴島北貝塚（県遺跡地名表登録番号11016）
時代・種別：奈良・平安時代の貝塚・製塩遺跡
所在地：塩竈市浦戸野々島朴島字窪沢
調査原因：朴島東（1459号）災害復旧事業（防潮堤復旧・二重防潮堤建設）〈東日本大震災復興関連事業〉
事業者：宮城県仙台土木事務所
調査期間：〔1次調査〕平成26年3月13日、〔2次調査〕平成27年7月6日・9日（実働2日間）
調査主体：塩竈市教育委員会
調査協力：宮城県教育委員会、宮城県仙台土木事務所、東洋建設株式会社
調査対象範囲：3,670㎡
調査面積：〔第1次調査〕15㎡、〔第2次調査〕192㎡、合計207㎡
調査員：〔第1次調査〕嘉見俊宏、廣谷和也、〔第2次調査〕引地弘行、田中秀幸、大本朋弥、柳澤和明・千葉直樹
重機：〔1次調査〕バックホー0.25、〔2次調査〕バックホー0.7（延べ3台） 作業員：なし
主な遺構・遺物：なし

（1）調査に至る経緯

朴島北貝塚は、松島湾内の離島のひとつ、塩竈市浦戸諸島朴島の北部に位置する奈良・平安時代の貝塚・製塩遺跡である（第18図）。遺跡範囲に防潮堤復旧・二重防潮堤建設工事が係ることから、平成25年度に確認調査を実施した。この第1次確認調査では、使用重機が0.25級と小さく、ポンプの排水能力を上回る流水により精査ができず、掘削深度も工事掘削深度より浅かったため、下層の遺構・遺物の有無について確認できなかった。しかし、土器片が少量出土したことから、遺物包含層が広範囲に広がることも想定された。そこで、平成27年度に本発掘調査の前に確認調査を再度実施し、その結果をもとに本発掘調査の範囲や止水処理方法などについて事業者と再協議することとなった。

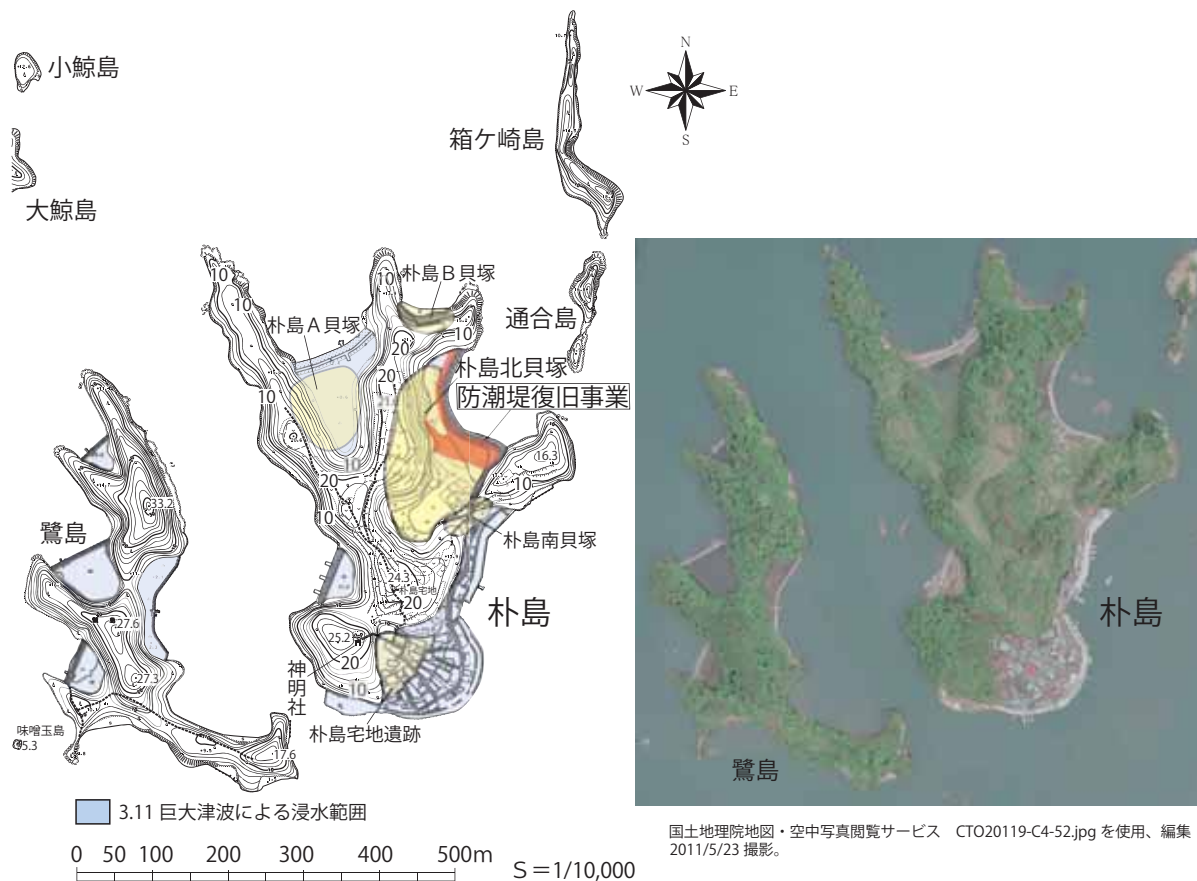
（2）第1次確認調査の成果

調査対象地は、東西を尾根に囲まれ北側で海浜に面した標高50cm未満の平坦地である。現況は、養殖廃棄物のホタテ殻・カキ殻によって埋め立てられた現代貝層が堤防の内側全域に広がっていた。防潮堤付近ではこの現代貝層より海水準にて海水が流れ出しているのが観察され、掘削に当たり調査区への海水の流入が予想された。

第1次確認調査では、6本のトレンチ（T 2～4・7・10・12）を設定した（第19図）。養殖カキ殻廃棄層（1層）、黒色粘土質層（2層）、青灰色砂質層（3層）が確認され、2層からは数点の製塩土器が出土していることから、遺物包含層が事業対象地全域に広がり、2層あるいは3層上面に製塩遺構が存在する可能性も想定された。

（3）第2次確認調査の成果

第2次確認調査は、第1次確認調査トレンチとの重複を避け、遺構の存在する可能性が比較的高い事業対象地南側と、東西尾根付近を中心に6本のトレンチ（T 1・5・6・8・9・11）を設定した（第19図）。第1次調査で小型重機しか用意できず掘削深度が足りなかったため、0.7㎡級バックホーを使

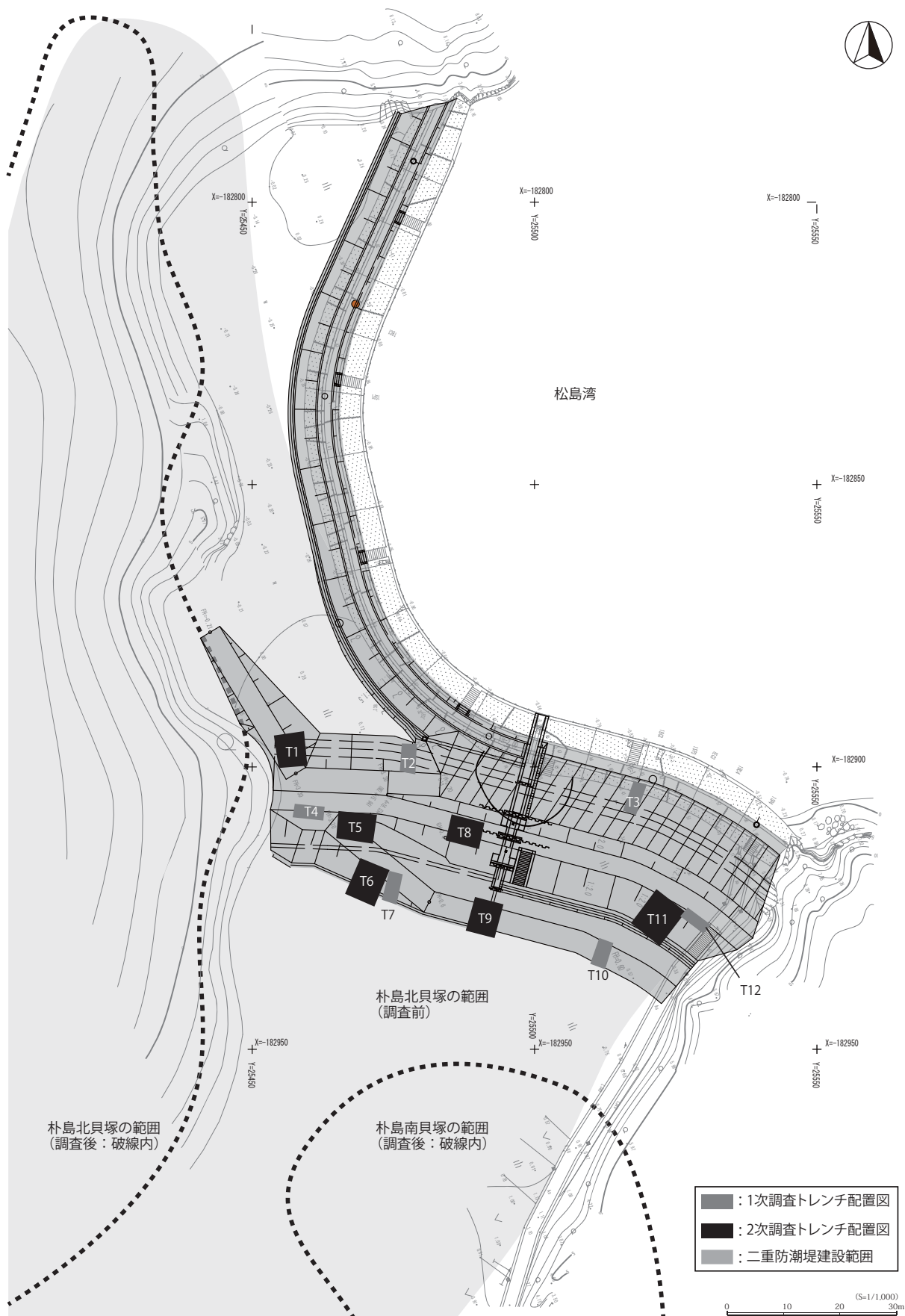


第 18 図 朴島における遺跡分布と調査区の位置

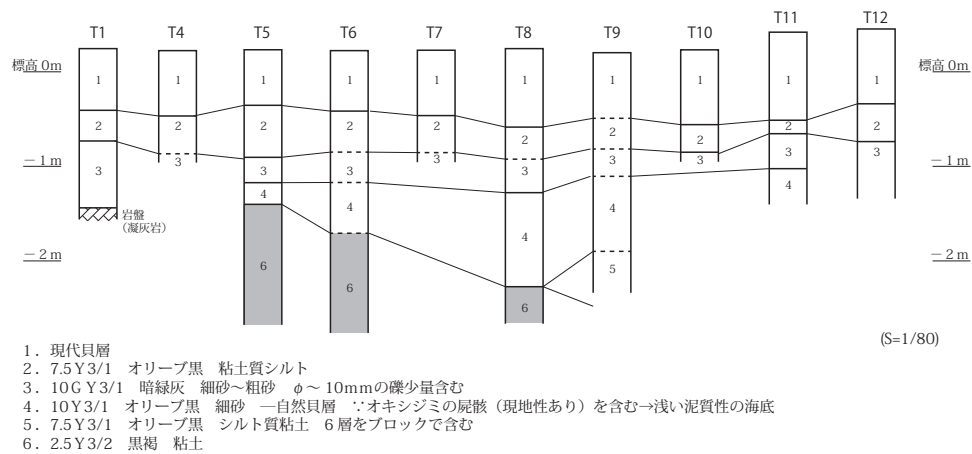
用した。排水はポンプ2台で試みたが、T1トレンチを除き、周囲からの海水の流入が激しく全く効果がなかったため、人力による遺構精査については第1次確認調査時と同様に不可能な状況であった。また、遺物の有無及び層序の確認は、掘削残土の精査によらざるをえず、その所見をもとに柱状図を作成した。

基本層序は、1層〔現代貝層〕、2層〔オリーブ黒色(7.5Y3/1)粘土質シルト〕、3層〔暗緑灰色(10GY3/1)細砂～粗砂〕、4層〔オリーブ黒色(10Y3/1)細砂〕、5層〔オリーブ黒色(7.5Y3/1)シルト質粘土〕、6層〔黒褐色(2.5Y3/2)粘土〕となる(第19図)。2層以下の各層は、浅海に自然堆積した海成堆積層とみられる。

第2次確認調査では、2層をはじめいずれの層からも遺物の出土はなく、古代の遺物包含層及び下層の遺構・遺物ともに認められなかった。第1次確認調査で出土した土器片4点もすべてローリングを受けて磨滅の著しい細片であることから、西側尾根上の遺跡本体からの流れ込みによるものと判断された。遺構の有無については、流水による悪条件のため、遺跡の性格上想定される製塩関係のものに限定せざるを得なかったが、尾根に近いT1・5・11トレンチのいずれにも焼土などは含まれていなかった。したがって、低地部分には古代の遺構・遺物包含層ともに存在しないと判断した。下層についても、4層はオキシジミなどの現地性の死殻が少量含まれている混貝土層であり、浅い泥質の海底に自然堆積した海成堆積物であると考えられる。また、浜中央部に近いトレンチほど4層の堆積が厚くなるとともに5層と6層の深度が増していることもこの想定と整合する。



第 19 図 二重防潮堤建設に係る朴島北貝塚の確認調査トレンチ配置図



第 20 図 二重防潮堤建設に伴う朴島北貝塚の確認調査トレンチ柱状図

(4) まとめ

第 1・2 次確認調査の結果、朴島北貝塚は防潮堤復旧工事の行われる海浜近くの低地部分までは広がっておらず、第 1 次確認調査で遺物包含層の可能性が指摘されていた 2 層から出土した土器もすべて周辺からの流れ込みによるものとみられた。事業対象地には遺物包含層は残されていないと判断され、下層の遺構・遺物についても存在しなかった。

以上のことから、事業予定地が遺跡範囲外であることが確認されたため、事業予定地内の工事による埋蔵文化財への影響はないと判断し、本発掘調査は行わないことになった。

また、第 1・2 次確認調査の結果を受け、朴島北貝塚とその東側の朴島南貝塚の範囲を変更することにした。



調査区遠景（北側海上から）



調査区遠景（東から）



T 1 トレンチ 2 層部分（南から）



T 6 トレンチ全景（南から）

図版 15 朴島北貝塚の確認調査

引用文献

- 相原淳一 2015「特別名勝松島における防潮堤整備に関する覚書―特に、チリ地震津波最大波高に関して―」『季刊地理学』67-1、pp.39～40
- 伊東信雄・工藤雅樹 1970「松島地域内の遺跡」『特別名勝松島』、pp.165～179
- 岩崎敏夫・堀川清司 1960「チリ地震津波とこれによる三陸地方災害の概況」『土木学会誌』45-8 pp. 9～16 (WEB公開PDF)
- 岩手県 1960『大船渡災害誌』(「津波デジタルライブラリ」WEB公開)
- 大塚徳郎 1955「原始時代及び古代の塩釜」『塩釜市史 本編1』、pp.9～76
- 加藤孝 1952「阿武隈北上両河岸段丘並びに松島沿岸諸島に於ける貝塚の分布とその編年」『宮城学院女子大学研究論文集』2、pp.213～237
- 加藤孝 1957「宮城県塩釜市桂島貝塚」『日本考古学年報』5、p.41
- 加藤孝 1960「考古学上から見た塩釜市周辺の遺跡」『塩釜市史』Ⅲ、pp. 1～80
- 北原糸子 2014「第九章 津波碑は生き続けているか―宮城県津波碑調査報告―」『津波災害と近代日本』(古川弘文館)、pp.197～244 (初出は北原糸子・卯花政孝・大邑潤三2012『災害復興研究』第4号)
- 後藤勝彦 1969「宮城県塩釜市桂島貝塚」『日本考古学年報』17、pp.80～81
- 後藤勝彦 1979「仙台湾縄文前期貝塚出土の動物遺体から見た漁撈活動について―特に左道貝塚・貝殻貝塚・桂島貝塚を中心として―」『宮城県多賀城跡調査研究所紀要』Ⅵ、pp. 1～27
- 後藤勝彦 1971「宮城県塩釜市浦戸桂島石浜梅ヶ浜製塩遺跡」『日本考古学年報』19、pp.202～203
- 小村良治 2006「近畿周辺地域の石材(切石)―小豆島石―」『地質ニュース』620、pp.42～50 (WEB公開PDF)
- 沢木大介・後藤光亀 2009「野蒜築港市街地跡の遺構から得られたセメント硬化物の化学的評価―構成部材の化学分析に基づく近代土木遺産の考古学的解析―」『土木学会論文集D』65-3、pp.229～243 (WEB公開PDF)
- 斉藤忠 1930「松島湾諸島における貝塚調査概報(上)」『東北文化研究』2-4、pp.83～100
- 斉藤忠 1930「松島湾諸島における貝塚調査概報(下)」『東北文化研究』2-5、pp.37～49
- 佐藤達夫 1953「桂島貝塚調査報告」『地域社会』5、pp.83～87
- 塩釜市教育委員会 2010『桂島貝塚』(塩釜市文化財調査報告書第8集)
- 塩釜女子高等学校社会部 1968「宮城県塩釜市浦戸桂島石浜梅ヶ浜製塩遺跡の発掘調査報告」『貝輪』3、pp.5～19
- 首藤伸夫 1999「津波による海岸堤防・護岸の被災―昭和8年三陸大津波から昭和35年チリ津波まで―」『津波工学研究報告』(東北大学工学部津波工学研究室)、pp. 1～37 (WEB公開PDF)
- 首藤伸夫 2000「津波対策小史」『津波学研究報告』17 (東京大学地震研究所)、pp. 1～19 (WEB公開PDF)
- 首藤伸夫 2012a「第3章 被害の実態」内閣府中央防災会議『1960チリ地震津波』(災害教訓の継承に関する専門調査会報告書)、pp.24～52 (WEB公開PDF)
- 首藤伸夫 2012b「第6章 被害の実態」内閣府中央防災会議『1960チリ地震津波』(災害教訓の継承に関する専門調査会報告書)、pp.76～122 (WEB公開PDF)
- 首藤伸夫 2012c「第9章 チリ地震津波とその後の対策に関する教訓」内閣府中央防災会議『1960チリ地震津波』(災害教訓の継承に関する専門調査会報告書)、pp.189～202 (WEB公開PDF)
- 東北歴史資料館 1989『宮城県の貝塚』(東北歴史資料館資料集25)
- 角田文衛 1936「陸前船入島貝塚の研究」『考古学論叢』3、pp.255～274
- 林謙作 1960「宮城県桂島貝塚出土の前期縄文式土器群」『考古学雑誌』46-3、pp.20～32
- 馬場俊介・増田智彦・岩村高正 1994「中部5県の近代土木遺産―道路隧道・砂防堰堤・発電堰堤の評価」『土木史研究』第14号、pp.109～124 (WEB公開PDF)
- 藤間功司 2012「第8章 構造物主体の津波対策の確立とその後」内閣府中央防災会議『1960チリ地震津波』(災害教訓の継承に関する専門調査会報告書)、pp.154～188 (WEB公開PDF)
- 牧隆康 1933「埋立又は干拓地に於ける石積堤防の維持保存工法(第四回日本農學會大會第七部會農業土木學

- 會講演抄)』『農業土木研究』5-2、pp.224～226 (WEB公開PDF)
- 町田洋・新井房夫・森脇広 1981「日本海を渡ってきたテフラ」『科学』51 pp.562～569
- 松本秀明 1984「宮城県松島湾の沈水過程」『東北地理』36、pp.46～53 (WEB公開PDF)
- 松本秀明 1988「宮城県松島湾の沈水過程の再検討」『東北地理』40、pp.290～291 (WEB公開PDF)
- 松本秀明・伊藤昌文 1998「宮城県沖積平野に於ける後水期の海面変動」『日本地理学会発表要旨集』53、pp.392～393 (WEB公開PDF)
- 松本秀明・小林文恵・熊谷真樹・遠藤大希 2014「松島のなりたちと堆積物に記録された大規模災害履歴」宮戸・野蒜地域の文化遺産の再生・活用検討実行委員会『松島—自然・景観・歴史・文化—』、pp.79～98
- 宮城県 1903『宮城県海嘯史』(「津波デジタルライブラリ」WEB公開)
- 宮城県 1935『宮城県昭和震嘯誌』(「津波デジタルライブラリ」WEB公開)
- 宮城県 1961『昭和35年5月24日チリ地震津波調査報告』(WEB公開PDF)
- 宮城県 1962『宮城県史 22災害』
- 宮城県教育委員会 2002『宮城県の近代化遺跡—宮城県近代化遺産総合調査報告書一』(宮城県文化財調査報告書第190集)
- 宮城県教育委員会 2009『シンポジウム 松島湾の文化遺産～そのすばらしさを知っていますか～報告書』
- 宮城県教育委員会 2014「Ⅲ. 平成24年度震災復興事業関連遺跡の発掘調査 2. 各遺跡の発掘調査(試掘) 11) 朴島宅地遺跡」『平成24年度東日本大震災復興関連遺跡調査報告Ⅰ』(宮城県文化財調査報告書第233集)、pp.37～42
- 宮城県教育委員会 2014「Ⅲ. 平成24年度震災復興事業関連遺跡の発掘調査 2. 各遺跡の発掘調査(試掘) 12) 桂島貝塚」『平成24年度東日本大震災復興関連遺跡調査報告Ⅰ』(宮城県文化財調査報告書第233集)、pp.43～50
- 宮戸・野蒜地域の文化遺産の再生・活用検討実行委員会 2014『松島—自然・景観・歴史・文化—』
- 村主岩吉 1928「塩釜周辺の貝塚発掘」『考古学雑誌』18-1、pp.35～37
- 村主岩吉 1928「塩釜付近の先史時代遺跡と原石採取地址」『考古学雑誌』18-12、pp.758～771
- 村主岩吉 1929「塩釜付近の先史時代遺跡と原石採取地址(二)」『考古学雑誌』19-2、pp.47～54
- 山内清男 1930「繊維土器に就いて—追加第二—」『史前学雑誌』2-1、pp.13～25
- 和歌山県教育委員会・和歌山県埋蔵文化財センター 2009『県指定史跡水軒堤防確認調査報告書』
- 和歌山県埋蔵文化財センター 2010『県指定史跡水軒堤防—和歌山下津港1号線交差点改良工事に伴う発掘調査報告書』

これまで刊行された文化財調査報告書

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 『塩竈市文化財調査報告書』第1集 | 「塩竈市清水沢横穴群調査報告書」昭和50年3月 |
| 『塩竈市文化財調査報告書』第2集 | 「塩竈市の文化財」昭和54年3月 |
| 『塩竈市文化財調査報告書』第3集 | 「杉の入裏窯跡」平成2年3月 |
| 『塩竈市文化財調査報告書』第4集 | 「ラッコ船「開成丸」遺留品」平成3年3月 |
| 『塩竈市文化財調査報告書』第5集 | 「母子沢遺跡」平成13年3月 |
| 『塩竈市文化財調査報告書』第6集 | 「宮城史学 第19号別冊 近世塩竈の町並み調査」 |
| 『多賀城市文化財調査報告書』第79集 | |
| 『塩竈市文化財調査報告書』第7集 | 「野田遺跡・矢作ヶ館跡」平成17年3月 |
| 『塩竈市文化財調査報告書』第8集 | 「桂島貝塚」平成22年3月 |

報告書抄録

ふりがな	うらとしょうはつくつちょうさほうこくしよーへいせい27ねんどふつこうじぎょうかんれんいせきはつくつちょうさほうこくしよー							
書 名	浦戸諸島発掘調査報告書							
副 書 名	ー平成27年度復興事業関連遺跡発掘調査報告書ー							
巻 次								
シリーズ名	塩竈市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第9集							
編 著 者 名	引地弘行・田中秀幸・大本朋弥・柳澤和明・千葉直樹							
編 集 機 関	塩竈市教育委員会							
所 在 地	〒985-0052 宮城県塩竈市本町1番1号 TEL. 022-362-2556 FAX. 022-365-3347							
発行年月日	西暦2016年（平成28年）4月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
かつらしまかいづか 桂島貝塚	みやぎけん 宮城県 しおがまし 塩竈市 うらとかつらしま 浦戸桂島 あざだい 字台	042030	11005	38° 20′ 09″	141° 05′ 42″	①平成27年 8月3日～同年 8月4日、 ②同年8月17 日～同年8月 19日	確認調査 ①113㎡、 ②24㎡	①浦戸地区漁業集落防災機能強化事業（集落道整備） 《東日本大震災復興関連事業：塩竈市》 ②桂島地区漁業集落防災機能強化事業（避難路整備） 《東日本大震災復興関連事業：塩竈市》
さぶさわもとやしきかいづか 寒風沢元屋敷貝塚 ひらとかいづか 平戸貝塚 ひらとBかいづか 平戸B貝塚 ひらとCかいづか 平戸C貝塚 まえはまがこいかいづか 前浜團貝塚隣接地	みやぎけん 宮城県 しおがまし 塩竈市 うらとさぶさわ 浦戸寒風沢 あざしんおおむかえ 字新大迎 ほか	042030	11034 11010 11043 11044 11009 11029	38° 19′ 54″	141° 07′ 22″	平成27年5月 11日～同年 5月21日	確認調査 1,200㎡	浦戸農地海岸災害復旧事業（寒風沢農地地区：農地復旧） 《東日本大震災復興関連事業：宮城県仙台地方振興事務所》
ひらとかいづか 平戸貝塚 うらとかいづか 浦戸貝塚 まえはまがこいかいづか 前浜團貝塚	みやぎけん 宮城県 しおがまし 塩竈市 うらとさぶさわ 浦戸寒風沢 あざひらと 字平戸ほか	042030	11010 11009 11029	38° 19′ 41″	141° 07′ 22″	平成27年9月 24日～同年 9月25日	確認調査 65㎡	寒風沢防潮堤工事（防潮堤復旧） 《東日本大震災復興関連事業：宮城県仙台塩釜港湾事務所》
ほおじまきたかいづか 朴島北貝塚	みやぎけん 宮城県 しおがまし 塩竈市 ののしまほおじま 野々島朴島 あざくぼさわ 字窪沢	042030	11016	38° 21′ 07″	141° 07′ 30″	第1次調査： 平成26年3月 13日、 第2次調査： 平成27年7月6 日・9日	確認調査 207㎡	朴島東(1459号)災害復旧事業（防潮堤復旧・二重防潮堤建設） 《東日本大震災復興関連事業：宮城県仙台北土木事務所》
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
桂島貝塚	貝塚	縄文時代	なし		なし		事業予定地は遺跡の範囲内だが、過去の造成・道路付設工事などによって削平され、遺構・貝層は検出されなかった。事業実施により遺跡に与える影響は軽微であると判断された。	
寒風沢元屋敷貝塚	貝塚 製塩遺跡	奈良・平安時代	混貝土層		古墳時代後期栗田式期～奈良時代の非ロクロ土師器球胴甕・甕・鉢または甑、9世紀代のロクロ土師器甕・内黒坏、9世紀中頃の須恵器坏（回転系切り無調整、底径大）、アサリ・マガキ・アカニシ、獣骨		①混貝土層は9世紀中頃までに形成されたが、年代幅が大きい。 ②事業予定地は盛土の高さがあまりなく、事業実施により遺跡に与える影響は軽微であると判断された。 ③遺跡範囲を変更。	
平戸・平戸B・平戸C・前浜団・浦戸貝塚	貝塚 製塩遺跡	奈良・平安時代	なし		なし		遺構・貝層・遺物とも確認されなかった。縄文時代～古代にかけて、事業予定地は海が大きく入り込む海岸であったとみられたことから、事業実施により遺跡に与える影響は軽微であると判断された。	
平戸貝塚	堤防跡	近現代	練石積海岸堤防		切石		昭和35年（1960年）チリ地震津波で被災した古い海岸堤防を東日本大震災で被災した現代の海岸堤防の下から検出した。モルタルを目地に詰めた練石積（布積）。大正後半～昭和初年に築堤または修復された可能性がある。	
朴島北貝塚	貝塚 製塩遺跡	奈良・平安時代	なし		なし		事業予定地が遺跡の範囲外であることが判明し、遺跡範囲を変更した。	

塩竈市文化財調査報告書第9集

浦戸諸島発掘調査報告書Ⅰ

—平成27年度復興事業関連遺跡発掘調査報告書—

平成28年4月20日印刷

平成28年4月28日発行

発 行 塩 竈 市 教 育 委 員 会
〒985-0052 宮城県塩竈市本町1番1号

印 刷 株式会社 工 陽 社
